

第三者意見



綜研化学「2013 社会・環境報告書を読んで」

公益社団法人 化学工学会
産学官連携センター SCE-Net
服部 道夫

化学会社で事業、プロセス、設備などの開発に従事し、その後大学の非常勤講師、企業の技術支援などを歴任。
元 環境マネジメントシステム主任審査員。資格：技術士(化学部門)、神奈川県技術アドバイザー、環境カウンセラー(事業者部門)

「受け手の視点から」

社会・環境報告書は、企業活動が社会・環境に及ぼす好ましくない影響を予防し、好ましい影響を付加する活動の計画・実施結果を報告するものと考えられます。ではだれに報告するのでしょうか。①お客様・お取引先の皆様と最終ユーザー、②活動の担い手である社員、③近隣住民の皆様と考えられます。これら受け手の視点から考えてみたいと思います。

①お客様・お取引先の皆様と最終ユーザー向け

2013報告書は、冒頭に製品の使用場面に発信しています。消費者の皆様に向けた視点が明らかにされており、表現方法の更なる工夫により、更に身近に感じるものとなることを期待します。本年より「お取引先様からのメッセージ」が記載され、今後とも顧客が綜研化学になにを期待しているかの道しるべとして活かしていくことを期待します。

②活動の担い手である社員向け

社員が会社方針・施策を自分のものとして「環境負荷低減・安全操業」の活動を担う意欲を高めるために重要です。一例をあげると「育児休業取得者の声」の記載は社員がこの制度を理解して相互に快く協力するために有用であり、更に将来の社員である学生向けに魅力的なメッセージとなることが望まれます。

③近隣住民の皆様向け

近隣の皆様の関心事は「マイナス面である生活環境への不快な影響防止と事故・災害の予防」と「プラス面である地域貢献」です。マイナス面への対応として災害予防処置と発生対応訓練の実施をベースとして、近隣住民の見学会を毎年実施し、参加者の声を活かして近隣と馴染み、不安低減と信頼を得ることは重要な視点です。またプラス面対応として子どもたち向けの質の高い理科教育が実施されており社会貢献として高く評価されます。さらに、「技術者の伝承・再生産」たとえば「この教育をうけた子どもたちの何人かが将来技術者になりたいと強く感じる」レベルを目指すことで、教える社員そのものがレベルアップしていくことを期待します。

「環境負荷低減の視点から」 第三次環境中期計画 重要課題3項目のうち2項目の目標・実績について

- ①「環境効率」：ここ数年、目標未達が続いていましたが、2012年度は4セグメントに分けて管理した結果、3セグメントで目標を大きく上回って達成しました。PDCAサイクルの適切な運用による仕組みの見直しが有効であったと思われます。
- ②「環境配慮型製品売上比率」：残念ながら2011年度にひきつづき、2012年度も目標未達です。懸命に努力をしても2年つづけて未達ということから、①と同様に未達の理由が仕組みのどこにあるかを深く分析し、適切な目標に対応した具体的な達成手段などの改善に継続的に踏み込むことを期待します。

全体としてよく計画・管理されており、それに従って社員がそれらを自分のものとして生き生きと行動されていることが実感されます。PDCAサイクルの運用により継続的改善をつづけて上記の「期待する」が「達成する・実現する」に進化していくことを期待します。



執行役員
安全推進室長
山本一己

第三者意見を受けて

社会・環境報告書は、環境マネジメントシステムの導入と同時期に、お客様・お取引先様、従業員、近隣の皆様へ綜研化学グループの社会への貢献、安全・環境活動の取り組みについて情報発信をするために毎年作られてきました。

環境活動の当初は環境への著しい側面を抽出して、それらの環境負荷を低減する活動として始めましたが、活動を可視化して綜研化学グループのステークホルダーの皆様から意見を頂き、また、1年間の活動成果を振り返り進めている過程で、綜研化学グループとして環境保全を指向することは、研究開発から製造、サプライチェーンまでのプロセスにおいて、本来の企業活動として重要な資源のロス、エネルギーのロスを無くして低コストで製品を提供することであるということが分かってきました。つまり、商品を提供する生産プロセスにおいて、環境の保全活動の方向は、根本的には効率的な生産プロセスを追究する方向と一致し、研究開発と生産プロセスの改善により環境保全と同時に生産性の向上を達成できることが分かってきました。

今回、綜研化学グループの社会・環境報告書の受け手の立場から、綜研化学グループに期待すること、更に今後、努力すべきこと等の貴重なご意見を頂きました。また、環境中期計画については、2012年度の実績を踏まえて、今後の取り組みについてのアドバイスを頂きました。社会・環境報告書により、ステークホルダーの皆様からのご意見とご指摘を頂くことは、綜研化学グループにとって大きな励みと活動の方向を示唆して頂けるものです。綜研化学グループの環境保全活動は少しずつですが質の高い活動のステージになりつつあると感じていますが、更に一層の努力をしてまいります。